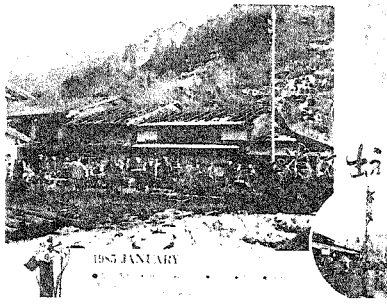


“ふるさとカレンダーは”  
届きましたか？



「ふるさとカレンダー」発行事業は、文化財、風景、祭りと風俗、今昔とテーマを決めて作製し、今回で五年目になります。

今年「ふるさと道遥（しようよう）」と題し編集しました。昨年のカレンダー同様市民各位から昔の懐かしい写真をお借りして作製しました。カレンダーに使った写真の説明は、毎月の広報にてお知らせします。



**表紙の説明**

市民各位からお借りした写真を、できるだけ多く紹介したく、昔の写真を並べてみました。

**一月の写真説明**

明治三十五年頃の消防出初式で、この頃は、各町（現在の自治会）ごとに出初式が行われました。いまでは見られなくなった手押しポンプ、はしごのりなど懐かしい写真です。

右上のカラー写真は、十二枚とも、県繊維工業試験場のご協力を願って挿入した「絵甲斐絹」です。

この「絵甲斐絹」は、明治四十三年頃のもので、明治時代には「絵ぎぬ」とも呼ばれました。

経（たて）糸へ模様を型紙で染めつけて、緯（よこ）糸をとおす織物で主に、羽織の裏地などに使われたようです。

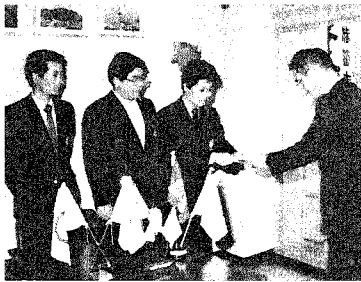
**国体基金へ寄付**

十一月二十七日、市民が国体の意義を理解し、積極的に協力する気運を盛りあげようと『かいじ国体県民運動都留市推進協議会』設立総会が開かれ、市民に国体の輪が広がります。

そんな時に、「国体のために役立てて下さい」と各団体から市の国体室に寄付が相次ぎました。

これらは、国体の花いっばい運動などに使わせていただきます。

- ありがとうございました。
- 都留ライオンズクラブ（亀田栄寿会長） 二十万円
- 谷村ボウリングクラブ（伊藤邦明会長） 五万円
- 青藍幼稚園保護者会（山口好保会長） 一万八千五百円



△谷村BCの皆さん



△都留ライオンズの皆さん

**乾電池収容缶を寄贈**

都留ライオンズクラブ（亀田栄寿会長）から、十二月十二日、ドラム缶を再利用した、使用済み乾電池の収容缶十二缶が市へ寄贈されました。

市では、十二月から使用済み乾電池の分別収集を行っており、今回寄贈された収容缶は、庁舎正面玄関脇と市内小中学校に設置し、生徒の家庭から出る使用済み乾電池を持ち寄り、保管するようにしました。

一般家庭では、透明ビニール袋に入れて、不燃物収集日にごみステーションの脇に出して下さい。

なお、事業所・工場等での処理方法につきましては、保健環境課環境係  
（☎三一一一内線二四九）  
にお問い合わせ下さい。

**ごみ不法投棄防止用**

**看板五十枚を寄贈**

東京電力大月営業所（宮沢巨所長）から、十二月十一日、六十一年かいじ国体環境美化運動に役立ててもらおうと、「川へごみを捨てないように」「みんなの手でみんなの川を美しく」と書いた看板五十枚を市へ寄贈されました。

市では、早速市内の主要河川わきなどに取り付けました。心ない人の捨てるゴミにより、小河川の水がはん濫、冬期には路面凍結し交通事故を招く例もあります。きれいな川・水は、みんなの財産です。一人ひとりが気をつけてゴミを川に捨てないようにしましょう。



△宮沢所長から市長へ